

論文内容要旨

Development of a scale measuring home-visiting
nurses' attitudes toward patient safety:
a cross-sectional study

(訪問看護師の患者安全に対する態度尺度の開発：
横断的研究)

BMC Nursing, 2023, in press.

主指導教員：中谷 久恵教授
(医系科学研究科 地域保健看護開発学)

副指導教員：折山 早苗教授
(医系科学研究科 基礎看護開発学)

副指導教員：新福 洋子 教授
(医系科学研究科 国際保健看護学)

吉松 恵子

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

【緒言】

在宅療養は、設備の違いや医療職者が常駐していないことにより、インシデントが発生しやすく、対処を療養者自身や家族が実施する必要がある。訪問看護師は、在宅におけるリスクを認識し、訪問看護の特性に応じて療養者の安全を確保し、在宅療養生活の安定のために支援する役割を担っている。そのために、訪問看護師は、常に安全に対する積極的な態度を高める必要がある。そこで、本研究では、訪問看護師の患者安全に対する態度を測定する尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。

【方法】

日本の訪問看護ステーションで勤務する訪問看護師 2,208 名を対象に無記名自記式アンケート調査を実施した。490 名から回答があり（回答率 22.2%）、参加者の基本情報に関する回答以外に欠損値のない 421 名（有効回答率 19.0%）を分析対象とした。訪問看護師の患者安全に対する態度に関する項目は、インタビュー調査（参考文献 2）の内容を参考に作成した。態度について、4 段階のリッカートスケールで調査した。項目内容が訪問看護師の患者安全の態度をとらえているかどうか、10 年以上訪問看護を実践している 10 名に調査し、内容妥当性を検証した。

分析方法は、参加者を無作為に 210 人の探索的因子分析（EFA）グループ、211 人の確認的因子分析（CFA）グループに分けた。本研究で開発した訪問看護師の態度尺度の信頼性を調べるために、天井効果と床効果、項目間の相関関係、および項目と合計の相関関係（I-T 相関）を調べた。続いて、因子構造を確認するために EFA を行った。次に、CFA により尺度の構造とモデルの有効性を確認した。各因子と尺度全体の Cronbach の α 係数を調べた。モデルの適合度は、Tucker Lewis Index (TLI)、比較適合指数 (CFI)、および二乗平均近似誤差 (RMSEA) を使用した。基準関連妥当性は、崎田らの開発した「日本の病院女性看護師の職場安全風土」と大出らの開発した「看護師の倫理的行動尺度改訂版」を作成者の許可を得て使用した。データ分析には SPSS バージョン 26 と Amos バージョン 26 を用いた。本研究は、島根県立大学出雲キャンパス研究倫理委員会（承認番号 345）によって承認を受け、実施した。

【結果】

参加者は平均年齢 47.9 ± 9.1 歳で訪問看護師としての経験は平均 7.0 ± 6.6 年であった。EFA と CFA の対象に差はなかった。18 項目において天井効果がみられた。本尺度が 4 件法であり、正規分布していないことから、内容について精査し、項目は削除せず、項目間相関、I-T 相関および EFA により検討することとした。床効果は見られなかった。項目間相関では強い相関 ($r=0.791$) を示す 1 項目、I-T 相関により $r \leq 0.3$ 以下の項目 3 項目を除外した。

EFA により、訪問看護師の患者安全に対する態度尺度は、「患者安全に対する自己研鑽」7 項目、「インシデントの認識」4 項目、「インシデント経験に基づく対策」5 項目、「療養者の生活を守る看護」3 項目の 4 因子 19 項目で構成されていた。最終的な EFA は、

Kaiser-Meyer-Olkin (KMO) 検定 0.875、Bartlett の球面度検定 1790.254 ($p < 0.001$) であった。Cronbach の α 係数は、因子 1~4 でそれぞれ 0.867、0.836、0.773、および 0.792 でした。全体の Cronbach の α 係数は 0.885 でした。4 つの因子間の相関係数は $r = 0.251 \sim 0.632$ の範囲で、弱い相関係数から中程度の相関係数が得られた。

CFA は、EFA から得られた因子構造を検証するために実行し、モデル指標は $\chi^2 = 305.155$ 、 $df = 146$ 、 $p < 0.001$ 、TLI = 0.886、CFI = 0.902、RMSEA = 0.072 (90% 信頼区間 0.061-0.083) でした。態度尺度全体と「日本の病院女性看護師の職場安全風土」の間には $r = 0.372$ の弱い相関が、「看護師の倫理的行動尺度改訂版」は「リスク回避」 $r = 0.525$ 、「善いケア」 $r = 0.594$ 、「公正なケア」 $r = 0.308$ (いずれも $p < 0.001$) の相関がみられた。

【考察】

訪問看護師の患者安全に対する態度尺度は CFA、基準関連妥当性、および Cronbach の α 係数の結果から、信頼性と妥当性が得られた。項目には「療養者の生活を守る看護」が含まれており、療養者の自宅で看護を実践する訪問看護の特徴を示していた。また、「安全のための自己研鑽」、「インシデントの認識」、「インシデント経験に基づいた対策」などの因子が含まれており、療養者の安全や事故防止に関する看護師の行動や意識の向上を対象としていた。そのため、訪問看護師の患者安全に対する態度を、行動面と意識面の両方から測定するのに有効であると示唆された。

(1990 字)